
あ　と　が　き

以上をもって概略の報告を終る。通例として結語などを書くべきであろうが、筆者のごとき浅学な者に高地性遺跡の意義など結論の出てくるわけでもなく、最初から遺物の説明のみを目標とし、多少の論旨はすでに文中で述べた。字伯母野山地域東部若干を残して、すでに当遺跡が湮滅してしまった今日、出来るだけ記憶の新しいうち何物かを残す必要が感じられ、当遺跡発見端緒以来の行掛り上、浅学もかへりみず概況報告を作成した。

遺物の説明中心としたため、遺跡のことなどについては乱雑に暴走したうらみもある。何分未熟であり、且つ粗略な点の多かったことは慚愧に耐えない。ご一覧の上、何かとご教示を得たく思っている。

文　責　　若　　林　　　　泰
製　図　　斉　　藤　　英　　二
